

第24回岩手内視鏡外科研究会

拝啓

向暑の候、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度、第24回岩手内視鏡外科研究会を下記の要項にて開催したく、ご案内申し上げます。
今回の特別講演は、弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座 教授 袴田 健一 先生と
藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学 教授 宇山 一郎 先生にお願い致しております。
万障お繰り合わせの上、ご参会下さいますようお願い申し上げます。

敬具

第24回岩手内視鏡外科研究会 当番世話人
岩手県立宮古病院 院長 川村 英伸

日時：令和4年7月9日(土) 15:00より
会場：ホテルロイヤル盛岡
盛岡市菜園1丁目11-11 TEL:019-653-1331
会費：医師1,000円 メディカルスタッフ500円

【情報提供】15:00~15:15

癒着防止吸収性バリア「セプラフィルム」 科研製薬株式会社

【開会の挨拶】15:15~15:20

岩手県立宮古病院 院長 川村 英伸 先生

【一般演題】15:20~15:45

座長:岩手医科大学医学部 外科学講座 講師 片桐 弘勝 先生

1. 「腹腔鏡下に胃壁固定術を実施した胃軸捻転の一例」

○瀬川武紀¹⁾ 藤社勉¹⁾ 阿部薫¹⁾ 橋元麻生¹⁾ 小林裕司¹⁾ 川村英伸¹⁾ 佐々木章²⁾

1)岩手県立宮古病院 外科2)岩手医科大学医学部 外科学講座

2. 「完全腹腔鏡下肝外側区域グラフト採取術の定型化」

岩手医科大学医学部 外科学講座

○梅邑晃 新田浩幸 片桐弘勝 菅野将史 武田大樹 安藤太郎 天野怜 菊地晃司 佐々木章

【特別講演 I】15:45~16:30

座長:岩手医科大学医学部 外科学講座 教授 佐々木 章 先生

日本内視鏡外科学会 大上賞受賞者 次世代育成事業

『上部消化管外科におけるロボット支援手術の現状と将来展望』

藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学 教授 宇山 一郎 先生

【特別講演 II】16:40~17:25

座長:岩手県立宮古病院 院長 川村 英伸 先生

『遠隔手術の近未来』

弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座 教授 袴田 健一 先生

【閉会の挨拶】17:25~17:30

岩手医科大学医学部 外科学講座 教授 佐々木 章 先生

事務局 岩手医科大学医学部 外科学講座

共催 岩手内視鏡外科研究会 科研製薬株式会社

後援 岩手県医師会 岩手医科大学医師会 盛岡市医師会

※本研究会は、岩手医科大学大学院医学研究科教務委員会により、医学研究科博士課程共通教育科目「大学院セミナー」(認定コマ数 1コマ)に認定されています。

SEMINAR for ENDOSCOPIC SURGERY

事前参加登録ご協力のお願い

本会は現地開催です。
新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前に参加人数を把握したく存じます。
お手数おかけしますがご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

下記URLもしくはQRコードからアクセスしてください

<https://forms.gle/1qpgPsCS1ZfBBNdA9>



ご入力いただきました個人情報は、科研製薬株式会社の個人情報保護に関する取組み(<https://www.kaken.co.jp/privacy/index.html>)に基づき安全かつ適切に管理致します。

【お問合せ先】

科研製薬株式会社 北日本支店 仙台営業所 永嶋 峻透

TEL:070-3890-5984 E-mail:nagashima_takayuki@kaken.co.jp

Information

●詳細は添付文書をご参照ください。添付文書の改訂に十分ご注意ください。

**2021年3月改訂(第14版)
*2017年11月改訂(第13版)

癒着防止吸収性バリア

セスラフィルム

ヒアルロン酸ナトリウム/
カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

高度管理医療機器 保険適用

承認番号:20900BZY00790000
承認年月日:1997年8月26日
再審査結果公表年月:2015年3月

【禁忌・禁止】

- 1. 適用対象(患者)
 - (1)貼付部位に感染が認められる患者に使用しないこと。[膿瘍、腹膜炎等が発現するおそれがある。]
 - (2)本材の成分に対し過敏症の既往歴のある患者に使用しないこと。
- 2. 使用方法
 - (1)再使用禁止。[本材は滅菌済み製品であり、1回限りの使用である。]
 - (2)本材の腸吻合部縫合線上へのラッピングは行わないこと。[本材を吻合部にラッピングした患者群で吻合部縫合不全、膿瘍、瘻孔、腹膜炎、敗血症の発生率が高かったとの報告がある。]

形状・構造及び原理等

1. 形状・構造

本材は生体吸収性材料であり、原材料としてヒアルロン酸ナトリウム及びカルボキシメチルセルロースを2:1の割合(重量比)で含有する。本材は、半透明のフィルム状である。

2. 原理

(1)本材は、物理的バリアとして癒着防止効果を発揮する。
(2)ラットを用いた試験では、本材は、適用後およそ24~48時間以内で水和したゲル状になり、およそ7日間貼付した組織に留まり、体内に吸収された後は、28日以内に体外へ排出される。

*3. 種類

本材には以下の種類がある。

包装種類	フィルム1枚あたり		1袋あたり フィルム合計面積
	寸法	面積	
1枚入り×1袋	12.7cm×14.7cm	186.69cm ²	—
2枚入り×1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm ²	186.69cm ²
4枚入り×1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm ²	373.38cm ²
4枚入り×1袋	7.35cm×6.35cm	46.67cm ²	186.69cm ²

使用目的又は効果

術後の癒着の軽減[腹部又は骨盤腔の手術患者に対して、腹部切開創下、腹膜損傷部位、または子宮及び付属器損傷部位に貼付し、術後癒着の頻度、範囲、程度を軽減する。]

使用方法等

1. 本材は、腹部又は骨盤腔の手術が終了し、腹部又は骨盤腔を開ける直前に適用すること。
 2. 本材は、必要に応じてフィルムをカットし、使用前、乾いた状態にしておくこと。[本材は、湿性組織への付着性が高いため、使用前に湿らすと貼付できなくなる。]また、本材適用に使用する器具は出来るだけ乾いた状態にしておくこと。
 3. 余分な水分は、本材が組織と付着するのを妨げるので、使用部位をできるだけ乾いた状態にしてから使用すること。
 4. 切開部及び関連する外科的損傷部が、充分に覆われるよう貼付すること。
 5. 本材を適用する際、他の組織に付着しないよう適用部位に直接貼付すること。適用部位以外の組織に付着した場合は、生理食塩液等を用いて穏やかに剥がすこともできる。
 6. 2枚以上使用する場合は、損傷部が完全にそして連続して覆われるように充分重ねて使用すること。
 7. 本材は、縫合して使用しないこと。
- [使用方法等に関連する使用上の注意]

- *1. 本材の取扱いは、乾いた器具や手袋を用いるなど慎重に行うこと。
- *2. いったん本材を組織に貼付した後は、本材を動かさないこと。
- *3. 本材は、水分に接触すると著しく操作性が低下し、適切に貼付を行うことができなくなるため、特に腹腔鏡下手術で使用する場合は、腹腔鏡下手術及び本材使用の十分な経験を持つ医師が使用すること。
- *4. ビール(内包の透明部分)は、患者体内への接触適用を意図していないので、生体には接触しないよう注意すること。
- *5. 以下のような手順で使用する。
 - 1) 適用直前にポリエスチルホルダーを開封し、滅菌済の内包を、清潔区域に取り出す。
 - 2) 内包から、本材の入ったホルダーを取り出す。
 - 3) 本材をホルダーから取り出す前に、乾いたハサミで貼付する適用部の大きさと形に切断する。
 - 4) ホルダーから本材を1~2cm引き出し、それをリードとして適用組織に貼付する。
 - 5) 必要に応じて、本材の入ったホルダーを少し折り曲げ風状にし、腹部骨盤腔に挿入し易くする。
 - 6) 組織又は臓器の所定の部位にしっかりと接着するように乾いた手袋又は、ガーゼを用いて本材を穏やかに押さえながら、ホルダーより本材を少しずつ取り出す。
 - 7) 適用後は、ホルダーを廃棄する。
 - 8) 貼付が終了したら、通常の手法により閉腹する。

使用上の注意

1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)

腹腔内に感染が認められる患者[腹腔内に感染または穿孔のある患者において膿瘍、腹膜炎等の報告がある。]

2. 重要な基本的注意

- * (1) 重症の薬物アレルギーの患者に本材を使用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確認されていない。
- (2) 本材使用後に、疼痛、腹部膨満、及び発熱の臨床症状を伴う異物反応が報告されている。このような症状を起した場合には、適切な措置を講ずること。
- (3) 本材の使用後に炎症性反応、膿瘍等が報告されているので、治療上の有益性を勘案した上で使用すること。
- * (4) 他の癒着防止材との併用で、本材を適用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確認されていない。
- * (5) 本材はガンマ線滅菌されている。開封後再滅菌して使用しないこと。また、使用前に本材の包装が開封されたり、破損している際は使用しないこと。

3. 不具合・有害事象

使用成績調査終了時(実施期間:1998年4月1日~2000年8月25日):
取集総症例数724例中、有害事象報告は8例(1.1%)10件であった。その主なものは、発熱4件(0.6%)、めまい、嘔気、頭痛、便秘症、心窩部痛及び腹腔内出血が各1件(0.1%)であった。

(1) 重大な有害事象

- 1) 創感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症: 創感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症(いずれも頻度不明[※])があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。
- 2) ショック: ショック(頻度不明[※])があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

(2) その他の有害事象

下記のような症状があらわれることがあるので、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

	0.2~1%未満	0.2%未満	頻度不明 [※]
* 腹部事象		腹腔内出血	イレウス、浮腫、癒着、創部開、吻合部漏出、瘻孔、腹腔内液貯留
その他	発熱	めまい、嘔気、頭痛、便秘症、心窩部痛	アレルギー反応、肝機能検査値異常、皮疹、腹痛、下痢

注) 自発報告により認められている有害事象のため、頻度不明。

4. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

妊娠中の使用に関する安全性は確立していないので、妊娠又は妊娠している可能性のある婦人には使用しないことが望ましい。

*5. その他の注意

海外のトロスベクティブ研究において、特に、極めて特殊で限定されたダブルキック手術を要した胆管癌、原発性胆管癌又は胆管癌患者で本材を使用した場合に、腹腔内液貯留、膿瘍の発現リスクが高かったとの報告がある。

保管方法及び有効期間等

1. 保管方法: 室温保存
2. 有効期間: 3年

2021A



発売元
科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込2丁目28-8

**製造販売元(輸入)

バクスター株式会社
東京都中央区晴海一丁目8番10号